科目 No.37

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅰ（看護技術の基礎）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年前期
講師名	神﨑ひとみ	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	本城咲		済生会福岡総合病院／感染管理認定看護師		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ⅰでは、まず「技術」とはなにかを考え、看護技術の特徴や看護技術を適切に実践するための要素である原理原則について考えたうえで、基礎的技術のうち、いわばその土台をなす技術である人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、感染防止の技術について学習していきましょう。

【目的】

1．臨床判断能力や看護の基盤となる看護技術の基礎を理解し、原理原則に基づき実践できる能力を養う。
2．看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的能力を養う。
3．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を養う。

【到達目標】

1. 技術とはなにか、看護技術の特徴・範囲、原理原則について説明することができる。
2. 看護技術を適切に実践するための共通する要素について説明することができる。
3. 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性について述べることができる。
4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本的な方法について説明することができる。
5. 演習を通して、原理原則に基づき、衛生的手洗いや個人防護用具の選択・着脱を実施することができる。
6. 演習を通して、原理原則に基づき、患者ケアに使用した器具等や感染性廃棄物の取り扱いを実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。
DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。
DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。
DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。
DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。
DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	看護技術を学ぶにあたって（観察・記録・報告を含む） 技術とはなにか、看護技術の特徴・範囲、原理原則とは	講義　ポストテスト	神﨑ひとみ
2	看護技術に共通する要素 安全確保の技術：患者確認（患者誤認防止）	講義　演習 ポストテスト	
3	コミュニケーションの基礎知識	講義　ポストテスト	
4	コミュニケーション	演習	
5			
6	感染とその予防の基礎知識 スタンダードプリコーションに基づく衛生的手洗い　個人防護用具（用具の選択・着脱）	講義　ポストテスト	本城咲
7	感染防止の実際；衛生的手洗い、個人防護用具の選択・着脱	演習	

8	感染防止の取り扱い（患者ケアに使用した器具、リネンなど） 感染性廃棄物の取り扱い	演習	本城咲
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

2 回目の「看護技術に共通する要素」は、テキスト「看護がみえる①　基礎看護技術」を使用します。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「実習に役立つ　看護コミュニケーション」の動画を事前に視聴し、3 回目の講義を受講しましょう。

「実践　看護技術シリーズ　感染予防編」の、スタンダードプリコーションの動画を事前に視聴し、6 回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（20 点）、技術試験（30 点）、筆記試験（50 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：スタンダードプリコーションに基づく衛生的手洗い、個人防護用具（用具の選択・着脱）
感染防止の取り扱い（患者ケアに使用した器具、リネンなど）、感染性廃棄物の取り扱い

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.38

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅱ（活動と休息の援助）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	藤松正行	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ⅱでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（環境調整技術、活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術）について学習していきましょう。

【目的】

１．臨床判断能力や看護の基盤となる活動と休息の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。
２．看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。
３．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。

【到達目標】

１．環境因子（物理的・人的）が療養生活に及ぼす影響について説明することができる。
２．演習を通して、ベッド周囲を快適な療養環境に整備することができる。
３．ベッドメーキング演習を通して、ボディメカニクスを活用し、原理原則に基づき作成することができる。
４．姿勢の基礎知識、さまざまな体位とその目的について説明することができる。
５．体位変換・体位保持演習を通して、原理原則に基づき、対象の状態にあった体位を保持することができる。
６．事例（臥床患者のリネン交換）演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。
７．移動が自力で困難な対象の移動（歩行・移乗・移送）を、原理原則に基づき実施することができる。
８．事例（臥床患者の車椅子による移送）演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。
９．睡眠・休息の援助方法を列記し、いくつか例を示して説明することができる。
１０．罨法が身体に及ぼす影響を踏まえ、対象の目的にあった罨法を原理原則に基づき実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。
DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。
DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。
DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。
DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。
DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	活動・休息援助技術の基礎知識（観察の視点を含む）	講義　ポストテスト	
2	環境調整技術の基礎知識	講義　ポストテスト	
3	援助の実際；環境整備	演習	
4	ベッドメーキング　ボディメカニクス	講義　ポストテスト	
5	援助の実際；ベッドメーキング	演習	
6			
7	活動の援助の基礎知識	講義　ポストテスト	

8	援助の実際；体位変換・体位保持（ポジショニング） 苦痛の緩和・安楽確保の技術；体位保持（ポジショニング）	演習	
9			
10	＜シミュレーション＞ 臥床患者のリネン交換（環境整備、ベッドメーキング、ボディメカニクス、体位変換が統合された看護技術） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習	
11	援助の実際；歩行介助、移乗介助、車椅子移送、ストレッチャー移送	演習 ポストテスト	
12			
13	＜シミュレーション＞ 臥床患者の車椅子による移送（体位変換、歩行、移乗、移送が統合された看護技術） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習	
14	睡眠・休息の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術；罨法の基礎知識	講義　演習 ポストテスト	
15	罨法（冷罨法・温罨法）の実際	演習	
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

自然科学（物理）の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「実践　看護技術シリーズ　日常生活の援助技術編」の、ベッドメイキング、リネン・寝衣交換、体位変換の項目の動画を事前に視聴し、１回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　3　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（20 点）、技術試験（30 点）、筆記試験（50 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、体位変換、体位の保持、安楽な体位、ポジショニング、歩行や移動の介助　車椅子やストレッチャーでの移送、移乗の介助、安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.39

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅲ（清潔・衣生活の援助）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	岩佐和枝	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	福島希実		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ⅲでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（清潔・衣生活援助技術）について学習していきましょう。

【目的】

1．臨床判断能力や看護の基盤となる清潔・衣生活の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。
2．看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。
3．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。

【到達目標】

1. 皮膚・粘膜の構造と機能をふまえ、清潔援助の効果と全身への影響について説明することができる。
2. 演習を通して、原理原則に基づき、寝衣交換を実施することができる。
3. 演習を通して、原理原則に基づき、洗髪を実施することができる。
4. 演習を通して、原理原則に基づき、手浴・足浴を実施することができる。
5. 演習を通して、原理原則に基づき、陰部洗浄・おむつ交換を実施することができる。
6. 演習を通して、原理原則に基づき、口腔ケアを実施することができる。
7. 演習を通して、原理原則に基づき、全身清拭を実施することができる。
8. 入浴・シャワー浴・爪ケア・ひげそりの援助方法及び留意点について説明することができる。
9. 事例演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	清潔・衣生活の援助の基礎知識（観察の視点を含む）	講義　ポストテスト	岩佐和枝
2	衣生活の援助の実際；寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者）	講義　演習 ポストテスト	
3			
4	清潔の援助（入浴・シャワー浴・洗髪）の基礎知識	講義　ポストテスト	福島希実
5	洗髪の実際；ケリーパッド・洗髪車・洗髪台	演習	
6			
7	清潔の援助（手浴・足浴・整容：爪ケア）の基礎知識	講義　ポストテスト	
8	手浴・足浴の実際；ベッド上・座位	演習	

9	清潔の援助（陰部洗浄・おむつ交換・口腔ケア）の基礎知識	講義　ポストテスト	福島希実
10	陰部洗浄・おむつ交換の実際	演習	
11	口腔ケアの実際　　※義歯のケア以外	演習	
12	清潔の援助（全身清拭・整容：耳の清潔・ひげそり）の基礎知識	講義　ポストテスト	岩佐和枝
13	全身清拭の実際	演習	
14			
15	＜シミュレーション＞ 臥床患者の上半身清拭と寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習	
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「実践　看護技術シリーズ　清潔の援助技術編」「看護ケアに役立つフットケア」の動画を事前に視聴し、１回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　3　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（31 点）、技術試験（30 点）、筆記試験（39 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：寝衣交換（点滴やドレーンを挿入していない患者）、洗髪、足浴、手浴、陰部の保清、オムツ交換、口腔ケア、全身清拭整容（爪ケア、耳ケア、髭剃り）

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.40

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅳ（食事と排泄の援助）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期
講師名	神﨑ひとみ	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	安田芽吹		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ⅳでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（食事援助技術、排泄援助技術）について学習していきましょう。

【目的】

1．臨床判断能力や看護の基盤となる食事と排泄の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。
2．看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。
3．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。

【到達目標】

1．対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法、医療施設で提供される食事について説明することができる。
2．演習を通して、原理原則に基づき食事摂取の介助を実施することができる。
3．摂食・嚥下訓練（間接・直接訓練）について説明することができる。
4．演習を通して、原理原則に基づき、胃管挿入・確認し、栄養物を注入することができる。
5．排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法について説明することができる。
6．演習を通して、原理原則に基づき、トイレ・ポータブルトイレ・床上排泄（尿器・便器）介助を実施することができる。
7．演習を通して、原理原則に基づき、導尿・膀胱留置カテーテル挿入と管理を実施することができる。
8．演習を通して、対象の状態にあった便秘改善のための援助を考え、原理原則に基づき実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。
DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。
DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。
DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。
DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。
DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	食事と排泄の援助の基礎知識（観察の視点を含む）	講義　ポストテスト	神﨑ひとみ
2	食事摂取の介助の基礎知識　　摂食・嚥下訓練の基礎知識	講義　ポストテスト	安田芽吹
3	食事摂取の介助の実際	演習	
4			
5	非経口的栄養摂取の援助の基礎知識	講義　ポストテスト	
6	経管栄養法の実際 経鼻胃管挿入と確認、栄養物注入	演習	
7			

8	排泄援助の基礎知識	講義　ポストテスト	安田芽吹
9	自然排尿および自然排便の介助の実際	演習	安田芽吹
10	トイレ歩行・ポータブルトイレ・床上排泄（尿器・便器）・オムツ排泄		
11	排尿・排便を促す援助（導尿＜一時的・持続的＞・浣腸）の基礎知識　※摘便以外	講義　ポストテスト	
12	排尿を促す援助の実際；導尿・膀胱留置カテーテル挿入と管理	演習	
13			
14	排便を促す援助の実際；腹部マッサージ・腰背部温罨法・浣腸	講義　演習	
15			
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

2 回目の授業後、身内の人に食事介助を実施し、自身の介助はどうであったか身内の人に確認し感じたこと、考えたことをレポートにまとめておきましょう。

8 回目の授業後、おむつ装着体験を実施してみましょう。方法①おむつに排尿し、2 時間以上経過してみましょう。②排尿できなかった場合は，200～300ml の微温湯をおむつに湿らして装着し 2 時間以上経過してみましょう。体験から感じたこと、考えたことをレポートにまとめておきましょう。

食事介助とおむつ装着体験レポートは、指定日時までに提出してください。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「実践　看護技術シリーズ　日常生活の援助技術編」の食事・経管栄養の動画を事前に視聴し、2 回目の講義を受講しましょう。

「実践　看護技術シリーズ　排泄の援助技術編」の動画を事前に視聴し、8 回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　3　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

近藤一郎他監　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（20 点）、技術試験（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み（10 点）筆記試験（40 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：食事介助（嚥下障害のある患者を除く）、経管栄養法による流動食の注入、経鼻胃チューブの挿入

併設介助（床上、ポータブルトイレ、オムツなど）、膀胱留置カテーテルの管理、浣腸、摘便

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。(導尿・膀胱留置カテーテル挿入は除く)

指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.41

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学： 基礎看護技術Ｖ（感染防止と呼吸と循環を整える援助）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期
講師名	神﨑ひとみ	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	福島希実		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	安田芽吹		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ｖでは、基礎看護技術Ｉで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（感染防止の技術、呼吸・循環を整える技術、救命救急処置技術、創傷管理技術）について学習していきましょう。

【目的】

１．臨床判断能力や看護の基盤となる感染防止と呼吸と循環を整える援助の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。

２．看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。

３．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。

【到達目標】

1. 感染経路別予防策、カテーテル関連血流感染対策について説明することができる。
2. 洗浄・消毒・滅菌の違い及び方法と適応について説明することができる。
3. 演習を通して、原理原則に基づき、無菌操作を実施することができる。
4. 演習を通して、原理原則に基づき、気道確保、指示された酸素投与方法及び酸素流量の設定を実施することができる。
5. 演習を通して、原理原則に基づき、酸素ボンベの操作と安全管理及び酸素残量の計算を実施することができる。
6. 演習を通して、原理原則に基づき、対象の状態に応じた排痰ケアを実施することができる。
7. ドレナージの管理について説明することができる。
8. 演習を通して、原理原則に基づき、創の状態に応じた創洗浄・創保護を実施することができる。
9. 演習を通して、原理原則に基づき、使用部位や目的に応じた包帯法を実施することができる。
10. 演習を通して、褥瘡のリスクアセスメントをし、原理原則に基づき、体位に応じた褥瘡予防ケアを実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	感染防止（感染経路別予防策：接触・飛沫・空気）の基礎知識 与薬の技術；カテーテル関連血流感染の基礎知識	講義　ポストテスト	神﨑ひとみ

2	洗浄・消毒・滅菌・無菌操作の基礎知識	講義　ポストテスト	福島希実
3	無菌操作の実際	演習	
4	呼吸・循環を整える技術 酸素療法（酸素吸入療法）の基礎知識	講義　ポストテスト	
5	援助の実際；気道確保、酸素吸入療法・酸素ボンベの操作と管理	演習	
6	排痰ケアの基礎知識	講義　ポストテスト	
7	援助の実際；排痰ケア（ネブライザーを用いた吸入、体位ドレナージ、咳嗽介助）	演習	福島希実
8	援助の実際；排痰ケア（口腔・鼻腔・気管内吸引）		
9			
10	持続吸引（ドレナージの管理）の基礎知識　体温管理の技術	講義　ポストテスト	
11	援助の実際；ドレナージの管理	演習	
12	創傷管理の基礎知識	講義　ポストテスト	安田芽吹
13	創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法）	講義　演習 ポストテスト	
14	褥瘡予防	講義　演習 ポストテスト	
15			
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

自然科学（物理）や微生物学（感染とその防御）の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「実践　看護技術シリーズ　感染予防編」の、の動画を事前に視聴し、１回目の講義を受講しましょう。

「看護のための酸素吸入療法」の動画を事前に視聴し、４回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　3　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

近藤一郎他監　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、筆記試験（70 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：無菌操作、酸素吸入療法の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ、体温調節の援助

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。（口腔・鼻腔・気管内吸引、創洗浄・創保護、褥瘡予防ケアは除く）

指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.43

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術総論（対象に応じた技術の適応）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年後期
講師名	神﨑ひとみ	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

この科目では、これまで学んできた基礎看護技術を対象（主要症状のある状況設定事例）に応じて適用し、対象の中心の看護としての看護技術や安全・安楽・自立など原理原則を踏まえて複合的に看護を実践していく基礎を養う機会としていきましょう。

【目的】対象の状態やニーズに応じて看護技術を組み合わせ、原理原則に基づき看護を実践できる基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. 主要症状のメカニズムと一般的な看護について説明することができる。
2. 主要症状のある事例の特徴を踏まえて、苦痛の緩和に向けた看護計画を立案することができる。
3. 対象の状態やニーズに応じて技術を組み合わせ、効果的な援助となるよう看護計画を立案することができる。
4. 立案した計画を対象の反応を確かめながら原理原則に基づき実施することができる。
5. 演習を通して、対象に応じて看護技術を創意工夫することの重要性を表現することができる。
6. 主体的、協調的に演習に取り組むことができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	主要症状と看護について 症状マネジメント理論について 演習のオリエンテーション	講義	
2 3 4 5	主要症状のある事例：倦怠感、発熱、失禁、掻痒感、便秘、浮腫 調べ学習と説明教材作成 互いに説明し合い理解を深める 視点： 対象のニーズの把握、状況判断、苦痛の緩和、対象を尊重した態度やコミュニケーション 症状の緩和に向けて技術を組み合わせ複合的に実践	演習 ポストテスト	
6 7 8	OSCE（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度レベル＜演習 1＞を中心に実施） 主要症状のある患者への安全安楽な看護 リフレクションと課題の明確化	演習	
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

病態生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。

主要症状と看護を学んでいく上で必要な文献など調べ、準備しておきましょう。

ICT を活用した調べ学習も行いましょう。

倦怠感、発熱、失禁、掻痒感、便秘、浮腫の原因・メカニズム・成り行き・治療や看護に関する基本的な知識は、授業前までに自己学習を進め、ておきましょう。

動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

「看護のための病態生理とアセスメント」の該当項目の動画を事前に視聴し、2 回目の講義を受講しましょう。

【使用するテキスト】

香春知永他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　4　臨床看護総論　医学書院　2023

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　3　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2023

近藤一郎他監　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア　2023

【参考文献】

阿部俊子監　エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図　中央法規　2014

関口恵子他編　根拠がわかる症状別看護過程　第３版　南江堂　2020

高木永子他編　看護過程に沿った対症看護　第５版　Gakken　2018

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、技術試験（30 点）、筆記試験（40 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：これまで学習した技術

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。(体温調節の援助)

指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.44

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：フィジカルアセスメント		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	緒方　裕美	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において助産師として勤務		
	岩佐　和枝		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

フィジカルアセスメントとは、ヘルスアセスメント（身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定すること）のなかに含まれ、対象の訴えを聴き、血圧測定や呼吸音の聴診、腹部の打診・触診などによって得られた身体的な情報についてアセスメントすることです。

看護師として、対象の状況を的確に判断するために、フィジカルアセスメントの能力は必要不可欠です。フィジカルアセスメントの先には、必ずアセスメント結果をいかした看護が実践され、実践した看護の評価の際もフィジカルアセスメントは行われます。

ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術のうち、いわばその土台をなす技術であるフィジカルアセスメントを解剖生理学での学びを活用しながら学んでいきましょう。

ヘルスアセスメントのなかに含まれる心理的・社会的アセスメントは看護過程の科目で学び、対象を全人的・多角的にとらえる力を養っていきましょう。

【目的】 臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を養う。

【到達目標】

1．　フィジカルアセスメントとはなにか、説明することができる。
2．　フィジカルアセスメントとヘルスアセスメントの関係性について説明することができる。
3．　健康歴聴取やセルフケア能力のアセスメントの目的・方法を説明することができる。
4．　フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診）の方法と留意点について説明することができる。
5．　演習を通して、正確にバイタルサイン測定することができる。
6．　演習を通して、正確に身体を計測することができる。
7．　演習を通して、 問診・視診・触診・聴診・打診を活用しながら系統的な症状の観察をし、得られた身体的情報をアセスメントすることができる。
8．　フィジカルアセスメントによって得られた結果を、看護の実践につなげる重要性について述べることができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント；問診の技術 1．フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 2．全身状態・全体印象の把握 3．計測；身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲	講義　演習 ポストテスト	緒方　裕美
2	バイタルサイン測定とは バイタルサインの観察とアセスメント（体温・脈拍）	講義 ポストテスト	
3	バイタルサインの観察とアセスメント（呼吸・血圧・spo2）	講義 ポストテスト	
4	臥床患者のバイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・spo2）	演習	
5			
6	＜シミュレーション＞		

	臨地でのバイタルサイン測定を想定し、測定から報告について学ぶ 正確に測定し、適切に報告する方法をリフレクションを通して考える	演習 GW	
7	フィジカルアセスメントとは 系統別フィジカルアセスメント；呼吸器系	講義 ポストテスト	岩佐　和枝
8	系統別フィジカルアセスメント；循環器系	講義 ポストテスト	
9		講義 ポストテスト	
10	系統別フィジカルアセスメント；腹部系/乳房・腋下	講義 ポストテスト	
11	系統別フィジカルアセスメント；神経系/筋・骨格系	講義 ポストテスト	
12		講義 ポストテスト	
13	系統別フィジカルアセスメント；　頭頸部と感覚系/外皮系	講義 ポストテスト	
14	〈シュミレーション〉 事例を用いて、必要なフィジカルアセスメントについて学ぶ（呼吸器・循環器）	GW　演習 発表	
15	〈シュミレーション〉 事例を用いて、必要なフィジカルアセスメントについて学ぶ	GW　演習 発表	
	筆記試験・技術試験		

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

動画視聴：「わかる！できる！バイタルサイン測定」を授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

熊谷たまき他監　看護がみえる③　フィジカルアセスメント　メディックメディア　2023

【参考文献】

図書室には多数のフィジカルアセスメントに関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、技術試験（30 点）、筆記試験（40 点）

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：身体計測、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

事前学習や復習、自己練習を繰り返して技術を習得していきましょう。

科目 No.35

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：看護の世界のはじまり		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	山本千代	所属および実務経験	副校長／医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

みなさんは「人の役に立ちたい」「看護師になりたい」という熱い思いから看護を志し、今ここにいます。そして、「看護の世界」がはじまりました。

現在、日本は少子高齢化が進み、看護師の活動の場の多様化が推し進められています。みなさんが目指す看護の世界は様々な価値観や文化を持つ多様な人々で、看護はその人々の「健康」「命」「暮らし」「生活」に密接に関連しています。これから看護の重要な概念について学び、「看護とはなにか」をたくさんの人々とディスカッションし、大いに楽しみながら主体的に学び合い、自分の考えの素地をつくっていきましょう。また、看護者に必須の倫理観を育む機会としていきましょう。

【目的】人々の「健康」「命」「暮らし」「生活」に密接に関連する看護の世界を概観し、看護を学ぶ意義を育むことができる。

【到達目標】

1. 看護師を目指した理由やなりたい看護師像を表現することができる。
2. 看護の重要概念の定義を述べることができる。
3. 健康について自己の考えを表現し、健康の意義について考察することができる。
4. 看護の役割と責務及び機能について説明することができる。
5. 看護活動の場と多職種連携の必要性について述べることができる。
6. 看護における倫理の意義や重要性について説明することができる。
7. 代表的な看護理論家の重要概念を要約し列記することができる。
8. 看護師になるための自己目標と取り組みを表現することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	これからはじまる看護の世界 「看護師になりたい私の思い」	演習 講義	
2	上記の発表を踏まえて、重要なキーワードを抽出してみよう！ 看護を学ぶにあたって：看護師への道、大切なことは・・・		
3	看護の重要概念：看護とは	講義 ポストテスト	
4	看護の重要概念：人間とは（看護の対象理解）	講義　演習 ポストテスト	
5	看護の重要概念：健康とは（国民の健康状態と生活）	講義　演習 ポストテスト	
6	看護の重要概念：環境とは（人間が生活する環境）	講義　演習 ポストテスト	
7	看護活動の場としくみ 多職種連携と看護の役割の機能	演習 講義 ポストテスト	
8			

9 １０	看護における倫理 なぜ看護に倫理観が必要か？ 現代社会と倫理、医療をめぐる倫理、看護実践における倫理	演習　講義 ポストテスト	
１１ １２ １３	看護とは 看護理論家から学ぶ ナイチンゲール：環境論 ヘンダーソン：ニード論 オレム：ニード論 ワトソン：ケアリング ロイ：適応モデル	演習　講義 ポストテスト	
１４	看護の提供者 看護職の資格と責務 専門職としての看護　生涯学習	講義 ポストテスト	
１５	まとめ 対象の健康と暮らしと看護	演習	
	筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

1 回目の授業には「看護師になりたい私の思い」についてレポートし持参してください。授業後、提出してください。

5 回目の授業には「私が考える健康とは」についてレポートし持参してください。授業後、提出してください。

9 回目～10 回目では倫理学での学びを活用していきます。復習し、必要なテキストなど持参してください。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　1　看護学概論　医学書院　2023

【参考文献】

宮坂道夫他著　系統看護学講座　別巻　看護倫理　医学書院　2023

東京医科大学看護専門学校編著　よくわかる看護職の倫理綱領　照林社　2021

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（50 点）

指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

演習では積極的に発言し、グループメンバーで協力し合い、目標達成に向けて学び合う姿勢で取り組みましょう。

科目 No.36

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：看護ホスピタリティ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年全期
講師名	山本千代	所属および実務経験	副校長／医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

看護職には良好な人間関係を構築する能力や人への尊厳に基づいた真心ある対応力が必要です。質の高い看護のために、ホスピタリティとは何かを理解し、実践に必要な表現方法や看護職に相応しいホスピタリティ・マインドを構築していきましょう。

【目的】看護師として誠実で礼節を尊ぶこころ、ホスピタリティ・マインドの基盤を養う。

【到達目標】

1. ホスピタリティの基本概念とその精神について説明することができる。
2. 看護におけるホスピタリティの重要性について考察することができる。
3. 看護師に相応しいホスピタリティ・マインドをロールプレイで表現することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP 6　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	ホスピタリティとは何か ホスピタリティの基本概念と精神 看護職の倫理綱領 専門職としてのマナー　看護職として求められるホスピタリティ	講義 演習	5 月の基礎看護学実習Ⅰ（1 日見学）の前に受講します。
2	好感度を高めるためのコミュニケーション 第一印象、身だしなみ、表情、態度、立居振舞、印象管理	演習	
3	信頼感を高めるためのコミュニケーション 言葉遣いと尊称、正しい美しい敬語	演習	
4	自己のコミュニケーションのリフレクション（11 月までの取り組みから考察） ホスピタリティ・マインドとは 自分自身を知る	講義 演習	1 月の基礎看護学実習Ⅰ（3 日見学）の前に受講します。
5	医療従事者としてのホスピタリティ 患者や医療チームへの配慮と行動表現 事例紹介とグループ学習計画	講義 演習	
6 7	事例演習	演習	
8	尊厳ある人間理解と思いやり ICT とホスピタリティ、私のホスピタリティ・マインド	講義 演習	
	レポート試験		

【準備学習内容】

1 回目の講義までに「看護職にマナーが求められる理由と私の課題」についてレポートにまとめ、当日持参してください。授業終了後、提出となります。

2 回目の講義には、各自、美しく好感が持たれる姿について考えた上で、それを表現した身だしなみで出席してください。（見学用スーツ着用）

3 回目の講義には、各自、美しく好感が持たれる姿について考えた上で、それを表現した身だしなみで出席してください。（白衣着用）

3 回目以降の講義は 12 月と期間が空いています。1 回目～3 回目で学んだことや基礎看護学実習Ⅰ（1 日見学）で気づいたことなどを踏まえて、ホスピタリティを考えながら講義や演習に取り組むと共に、学校生活においても好感度や信頼感を高めるためのコミュニケーションを実践していきましょう。コミュニケーションは普段からの習慣づけが重要です。

4 回目以降は上記に示した、これまでの自己の取り組みをリフレクションしながら学びを積み上げていきます。毎回の講義での学びを日常の中で、行動で表現していきましょう。

6 回目・7 回目は事例演習の発表です。事前に、グループメンバーで協力し合いグループ学習を行っていきましょう。
【使用するテキスト】 田中千恵子編　医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト　日本能率協会マネジメントセンター　2017 茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　1　看護学概論　医学書院　2023
【参考文献】 古関博美著　看護のホスピタリティとマナー　鷹書房弓プレス　2001 近藤和子著　はじめての医療接遇　患者のための心のこもったおもてなし　ごきげんビジネス出版　2018 三瓶舞紀子著　看護の現場ですぐに役立つ患者接遇のキホン　秀和システム　2018
【評価方法】 課題レポートを含む講義・演習中の態度や姿勢、出席状況、発表の準備状態（50 点）、レポート試験（50 点） 最終日にレポート試験のテーマを知らせます。試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。 指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。
【受講上の注意】 16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.45

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：看護過程		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	2 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	神﨑ひとみ	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務師		

【科目のねらい】

看護過程は、対象にとって必要な援助を判断し提供する際に必要となる思考過程です。ここでは看護過程を用いる意義や基本的プロセスについて理解したうえで、事例対象の反応をゴードンの機能的健康パターンを用いて分析することで、個別性のある看護実践につなげるための思考過程を習得しましょう。対象を全人的にとらえ看護上の問題を見出し、健康増進・疾病の予防と回復・維持、安寧な死を迎えるなど様々な状況に応じた看護を考え、実践するための基礎的能力を身につけましょう。

【目的】対象を全人的にとらえ、個別性のある看護を実践するために看護過程を展開できる基礎的能力を養う。

【到達目標】

1．看護過程を用いることの意義を説明することができる。
2．看護過程を構成する要素とそのプロセスを述べることができる。
3．ゴードンの機能的健康パターンに基づく枠組みを利用して、必要な情報を収集することができる。
4．11 パターンの分析の視点を踏まえ、知識や看護理論を活用しながら、情報の分析（正常か異常の判断、原因、成り行き）をすることができる。
5．関連図を作成し、対象の全体像を把握することができる。
6．対象の看護問題で、介入すべき・解決すべき優先順位を決定することができる。
7．看護問題に対して、目標設定し、対象の情報を活かした個別的な計画（安全・安楽性も踏まえる）を立案することができる。
8．計画立案の一部を実施することができる。
9．目標到達できたか評価し、到達できなかった場合はその原因を考察することができる。
10．グループワークを通して主体的に学習する姿勢を身につけ、看護を考える楽しさを分かち合えることができる。

【DP との関連】

DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	看護とは 看護過程とは　科学的根拠に基づく看護実践のプロセス	講義　演習 ポストテスト	
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方　　問題解決思考　　看護過程と看護理論		
3	アセスメントに活用できる看護理論について ・中範囲理論の概要 ・マズローの基本的欲求 ・セリエ　ストレス適応理論 ・コーピングストレス ・コンフォート（安楽） ・行動変容ステージモデル ・エリクソンの発達論	講義　演習 ポストテスト	

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	※ゴードンの機能的健康パターンの分類に基づき、紙上事例を用いて看護過程を展開する ・アセスメント（情報の収集と分析） ・全体像の把握（関連図） ・看護問題の明確化（看護診断） ・目標設定 ・看護計画の立案	講義　演習	
14	・実施	演習	
15	・評価 ・学習のまとめ	講義 演習	
	終了試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

演習では事前課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

リンダ J．カルペニート著　黒江ゆり子監　看護診断ハンドブック　第 11 版　医学書院　2020

【参考文献】

渡邊トシ子編　ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント　ヌーヴェルヒロカワ　2015

高木永子監　看護過程に沿った対象看護　病態生理と看護のポイント　第５版　学研　2018

矢田昭子編　基準看護計画　第３版　照林社　2016

江川隆子編　ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　第５版　ヌーヴェルヒロカワ　2016

石川ふみよ著　看護過程の解体新書　学研メディカル秀潤社　2015

黒田裕子監　看護診断のためのよくわかる中範囲理論　第２版　学研メディカル秀潤社　2018

任和子編　病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程　照林社

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（２０点）、課題レポート（50 点）、筆記試験（３０点）

課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

演習の詳細は別途配布し説明します。

科目 No.42

分　野	専門分野	科　目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅵ（与薬の援助）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	石崎弥生		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		
	坂井美緒		専任教員　／ 医療機関において看護師として勤務		

【科目のねらい】

少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。

基礎看護技術Ⅵでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（与薬の技術）について学習していきましょう。

【目的】

1．臨床判断能力や看護の基盤となる与薬の援助の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。
2．看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。
3．人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。

【到達目標】

1．正しい与薬、誤薬防止の方法を説明することができる。
2．薬剤の剤形と特徴を踏まえ、援助のポイントを説明することができる。
3．演習を通して、原理原則に基づき、経口薬・経皮薬・坐薬を与薬することができる。
4．注射の基礎知識、針刺し防止策と事故後の対応について説明することができる。
5．皮下・皮内・筋肉内注射の演習を通して、原理原則に基づき、準備から一連を実施することができる。
6．静脈内注射の基礎知識について説明することができる。
7．静脈内注射の演習を通して、原理原則に基づき、準備から一連を実施することができる。
8．演習を通して、原理原則に基づき、輸血管理を実施することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。
DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。
DP3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。
DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。
DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。
DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	学習内容	方法	備考
1	与薬（薬物動態、正しい与薬）の基礎知識　　※薬の管理以外 安全確保の技術；誤薬防止	講義 ポストテスト	森下美香
2	経口与薬・口腔内与薬	講義　演習 ポストテスト	
3	吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬　直腸内与薬	講義　演習 ポストテスト	

4	口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬	演習	
5	注射の基礎知識；注射方法の種類、概要と特徴、体内への吸収速度、量、注射針の選択 感染防止の技術；針刺し防止策と事故後の対応	講義　ポストテスト	石崎弥生
6	皮下・皮内・筋肉内注射の基礎知識	講義　ポストテスト	
7 8	皮下・皮内・筋肉内注射の実際； 注射針と注射筒の接続、薬液の吸い上げ、注射の実施	演習	石崎弥生
9	静脈内注射の基礎知識；薬理作用を踏まえた静脈内注射の危険性、目的、注意点、注射部位の選択、輸液ラインと留置針の交換時期、輸液速度の調整	講義　演習 ポストテスト	坂井美緒
10	静脈内注射の実際（ワンショット）　静脈内注射の実際（翼状針による点滴静脈内注射）	講義　演習 ポストテスト	
11	静脈内注射の実際（静脈留置針による点滴静脈内注射）　三方活栓の取り扱い ※輸液ポンプ・シリンジポンプの操作と管理以外	講義　演習 ポストテスト	
12 13	静脈内注射の実際（ワンショット） 静脈内注射の実際（翼状針による点滴静脈内注射）　三方活栓の取り扱い 注射指示書の確認から、点滴準備、実施（滴下速度調整、対象の状態や輸液ラインの確認）まで一連を通しての演習	演習	
14	静脈内注射の実際（中心静脈カテーテル） 食事援助技術；中心静脈栄養法 輸血管理；援助（血液製剤の管理、輸血の副作用）の基礎知識	講義　演習 ポストテスト	石崎弥生
15	輸血管理；援助の実際	演習	
	試験		

【準備学習内容】

薬理学や自然科学（化学：溶液の濃度計算）の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：「実践！看護技術シリーズ」：Vol.3 与薬、Vol.4 注射、Vol.5 輸液、Vol.7 輸血の動画を視聴しておきましょう。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　2023

任和子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2023

藤本真紀子他監　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア　2022

近藤一郎他監　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア　2022

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（27 点）、課題レポートを含む演習への取り組み（23 点）、筆記試験（50 点）

演習への取り組み（チェックリスト作成や自己・他者評価）は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル　演習Ⅰ：経皮・外用薬の投与

　到達度の確認は、演習中の技術確認およびチェックリストを活用して自己練習後に動画提出。詳細は別紙参照。

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。（経皮・外用薬の投与）

指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。